



ポールとビル

ポール・アレン。パソコンに詳しい人なら、聞いたことがある名前だろう。十代の頃からビル・ゲイツと親しく、共にマイクロソフトを創業した人物だ。1982年に難病を患い、翌年に克服したものの「これまで時間がなくて、できなかったことをやりたい」とゲイツに伝えてマイクロソフトを退社。現在ではAOLなどデジタルインフラ企業への投資家として、また社会貢献家としても積極的に活動している。『フォーブス』誌による長者番付では、1998年が3位、1999年は2位(1位はもちろんゲイツ)にランクされた。要するに、超が3つくらい付く大金持ちなのだ。

そのアレンには、もう1つの顔がある。シアトル出身の天才ギタリスト、ジミ・ヘンドリックスの大ファンで、自らもグロウンメン **Jump01** というバンドを率いるロックンローラーというものだ。衣装やギターなど、膨大なジミヘン関連のコレクションを持ち、92年には「ジミヘン博物館！」の構想を発表していた。最初にこの話を聞いたとき、マイクロソフトとジミヘンという組み合わせに意外な違和感を覚えた記憶がある。ビル・ゲイツのイメージが、音楽でいえばカーベンターズとかリチャード・クレイダーマン(言い過ぎか)のようなものだったからだ。逆にその日以来、ジミヘン・フリークという理由だけで、アレンという人物にも興味を持ち始めた。

そして先日、たまたまシアトルを取材で訪れた際、偶然にも「ジミヘン博物館」構想の発展形である「エクスペリエンス・ミュージック・プロジェクト(EMP)」 **Jump02** のグランドオープンに立ち会うことができた。EMPは、楽器やレコードといった「モノの展示」は元より、「ファンク」の謎を探る旅に出かけるモーションライドや、デジタル技術を駆使した楽器教室、ステージでのライブ演奏をプレイヤーとして体験できるセクションなど、テーマパークと教育機関とミュージアムが合体して、さらにデジタルで武装したような素晴らしい施設だった。ロックだけではなく、ジャズやカントリーなど、アメリカのポピュラー音楽が好きな人であれば、EMPだけのためにシアトルを訪れても損はないと思えるほどだ。

EMPと比較するのはおこがましいが、私自身、もう何年も前から「テレビゲーム・ミュージアム」という構想を進めているので、この種のプロジェクトの出来は非常に気



©2000 Tim Streetporter

になる。他のプロジェクトがマネできないのは、アレンという個人が、オカネ、コンテンツ、テクノロジーのすべてを担っている点だ。普通は、カネを出す人は中身がわかっていない、あるいはテクノロジーに疎い。またはその逆、といったように、プロジェクトに必須の要素がアンバランスで、ハコだけが立派だったり、あるいは中身はきちんとしていても、あまりにも低予算でローテクだったりすることが多いのだ。EMPは、やりたい人自身が自分のカネで得意分野を駆使するという、ある種の理想的な形を取っているように見える。

さて、アレンはEMP開設に約250億円を投じたといわれる。決して小さい額ではないが、アレンの活動としてはほんの一部にすぎない。NBAのバスケットボールチーム、NFLのフットボールチームを所有し、かつてのゼロックス・パロアルト研のようなシンクタンクを運営。さらに、AOLの株を十数パーセント持ち、スピルバークのドリームワークス社などに投資する大投資家なのだ(そういえばEMPのオープンにはスピルバークが来ていた)。印象派絵画のコレクターとしても知られ、ダイビングや音楽やスポーツを楽しみつつ、デジタル社会の将来に投資するアレン。一方、現役のフロントマンとしてアグレッシブに活動し続けるゲイツ。あなたは、どちらのライフスタイルを選びますか。

Jump01 www.grownmen.com

Jump02 www.emplive.com



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp